

# 用語の説明

## 県民経済計算（けんみんけいざいけいさん）

県内の経済活動を包括的に記録する統計で、経済活動を営むことにより一年間に作り出した新たな価値（付加価値）を「生産」、「分配」、「支出」の三つの側面から把握したもの。

## 県内総生産（けんないそうせいさん）→県内総生産（生産側）

県内ベースの総生産。この県内総生産を経済活動別にみたものが経済活動別県内総生産となり、県内総生産（支出側）と同額になる。産出額から中間投入を控除して求める。固定資本減耗を控除する前の値である。

## 名目（めいもく）→名目値

その時点の価格で評価した値で、国や他県との経済規模の比較や構成比の分析を行う際に適切な数値。

## 実質（じっしつ）→実質値

ある特定の年の価格水準を基準として、その年からの物価変動の影響を取り除いた値で、異なる時点の比較をする際に適切な数値。

## 県民所得（けんみんしょとく）

分配された付加価値を県民ベースで評価したもの。県内純生産に県外からの所得（純）を加えた値であり、県民雇用者報酬、財産所得、企業所得からなる。市場価格表示と要素費用表示があるが、通常、要素費用表示の額を県民所得としている。

## 1人当たり県民所得（ひとりあたりけんみんしょとく）

県民所得を各年10月1日現在の県の総人口で除して算出したもの。この中には、給料や自営業者の所得だけでなく、企業の所得も含まれている。

## 県内総生産（支出側）（けんないそうせいさん（ししゅつがわ））

県内ベースの総支出。県内総生産（生産側）と同額。最終消費支出、総資本形成、財貨・サービスの移出入（純）・統計上の不突合からなる。支出側に統計上の不突合が計上されており、生産側と調整されている。

## 財貨・サービスの移出・移入（ざいか・さーびすのいしゅつ・いにゆう）

居住者と非居住者（県内と県外）の間の財貨・サービスの取引をいう。

## 統計上の不突合（とうけいじょうのふとつごう）

本来一致するはずの県内総生産（支出側）と県内総生産（生産側）の間で、推計方法の違いから生じる不一致を調整するために計上するもの。推計に使用する基礎統計の精度などの都合から、福島県では支出系列に計上している。

## デフレーター（でふれーたー）

物価の総合的な変動を表す指標で、名目値から実質値を算出するために用いられるもの。

## 中間投入（ちゅうかんとくにゆう）

生産の過程で原材料・光熱水費・間接費等として消費された財貨・サービス。

## 県民総所得（けんみんそうしょとく）

県民が受け取った所得の総額を示すもの。県内総生産（支出側）（＝県内総生産（生産側））に県外からの所得の純受取を加えたもの。

## 産業連関表（さんぎょうれんかんひょう）

一定地域において対象年一年間に行われた産業間の取引、産業と最終消費者（家計など）の間の取引及び地域外との取引を一覧表にまとめたもの。

## 勤労者世帯（きんろうしゃせたい）

世帯主が会社、官公庁、学校、工場、商店などに勤めている世帯。世帯主が社長、取締役、理事など会社役員である世帯は含まない。

## 消費者物価指数（しょうひしゃぶっかしすう）

全国の世帯が購入する家計に係る財及びサービスの価格などを総合した物価の変動を時系列的に測定するものであり、家計の消費構造を一定のものに固定し、これに要する費用が物価の変動によってどう変化するかを指数値で示したものである。